

かみところ

新年号
第9号



総括・新年度へのステップ



上所校区コミュニティ協議会
会長 宗村多四郎



“新年あけましておめでとうございます”
一昨年5月の総会で会長を受けてから、1年8ヶ月が経過いたしました。

就任の課題「協働化の推進」に、役員と共に一生懸命取り組んでまいりました。

それには、先ず役員間の相互信頼を構築して、協力し行動することでした。その結果少しずつ成果を重ね確実に前進してまいりました。

もちろん、会員の温かいご理解とご支援があつての結果です。厚くお礼と感謝を申し上げます。

さて、新しい試みとして、年度中間に各ブロック別に情報交換と交流会を実施いたしました。

その総括を次頁に記載しましたのでご覧ください。各自治会長から意見・要望・課題が提起されました。このことについては、役員会議で

論議し、今後のコミ協運営に活用していきたいと思ひます。

この情報交換・交流会は、各ブロックの幹事により、企画、総括までお願いしました。相互啓発を計るべく実施したのですが、結果として大変に意義と成果があり満足しております。ご協力ありがとうございました。

今年度も残り少なくなりました。「計画→実施→反省」の検証、総括のうへ新年度の計画に引継ぎ、より改善、改革を推進してまいる所存です。

なお、23年度は規約により役員の改選期を迎えます。大事な役員人事ですので、会員の意見をお聞きし総会への提案を作成したいと思ひます。

年度末日まで、全力を傾注して役目を全うしますので、よろしくお願い申し上げます。



ブロック会議・交流会の総括



従来は、コミ協所属の各会長さんと顔を合わせ懇談する機会は、年1回の総会のみでした。

顔と名前を覚えることも困難であり、十分な情報交換や意思の疎通は図れない状況でしたので、新たな試案としてブロックごとに、ブロック幹事が企画から総括まで担当して、情報交換と交流会を実施してもらいました。

各幹事の皆さんには、大変ご苦勞をおかけしましたが、「各自治会の実態及び意見・要望を聞いたことは、非常に良かった」との評価でした。そのことに安心し喜び感謝いたしております。

「ブロック会議・交流会の主な提案事項」

◆意見について

- ①民生委員が把握している高齢者名簿等を活用して、特に一人世帯の状況を自治会役員も共有すべきである。
- ②民生委員との連携が大事である。
- ③各助成金の値上げは慎重を期して欲しい。
- ④コミ協役員が一方のブロックに偏っている。

◆要望について

- ①コミ協の拠点事務所の設置を早急に望む。
- ②コミ協役員等について、自治・町内会長の任期との調整を検討すべきである。
- ③会長以外の役員でも会合等に出席できるよう調整してはどうか。
- ④「資源ごみ持ち去り禁止」の市への条例化を要望する。

◆課題について

- ①趣旨説明を充分にして「世帯票」の提出を求める。
- ②要援護体制確立から、自主防災組織の結成を図る。
- ③陳情事項「背割排水路等」の推進を要望してゆく。
- ④幼児虐待対策は、発生時は民生・児童委員、警察等に連絡対処の必要がある。
- ⑤自治会会員と役員との信頼関係の構築を図る。

◆その他

- ①電柱と電話柱の兼用化の検討。
- ②防犯ボランティアネットワークに登録。

会長の総括

- ・企画・実施→成果があり、感謝です。
- ・各自治会での「取り組み」「問題の実態」等々、各種各様で熱意度・温度差が感じられます。
- ・相互啓発の参考として実施した意義がありました。
- ・この意見、要望等について、スタッフ役員で議論して今後のコミ協の運営に活かしてゆきます。

色々大変ありがとうございました。

上所校区地域諸団体との合同会議

22年度は上所コミ協、民生児童委員協議会、上所PTA、スポーツ振興会、そして、今年はあらたに、老人クラブが加わり5団体として初の会議となり各団体の課題について共有し、互いの親交を温めた。



レッツ・エコウォーク上所を歩こう

22年9月26日(日)晴、参加人員、大人121人、小学生79人、合計200人。心配していた天候もよく、最高の人数の参加で大きな事故もなく、全員が完歩でき、校区内の清掃を親子三代とともに気持ちよくできたことは大変に有意義でした。





『危機管理対策』について

防災部 部会長 山 際 孝 宏

11月6日（土）、鳥屋野地区公民館において、上所校区の防災研修会のご案内をいたしましたところ、多数の自治・町内会の役員のみなさん方からご出席していただき誠にありがとうございました。

昨年は、『災害時要援護者支援防災研修会』として開催し、各自治・町内会に居住しておられる方々について、市当局からの災害時要援護者名簿の掌握、安否の確認、搬送方法等についての研修で、不肖私たちの自治会（堀之内中通り自治会）の防災訓練での模様を報告させていただきました。

今年は、DVD（最新版）をつかい、市担当、金子係長（中央区総務課安心安全係）より懇切丁寧なご指導をいただきました。自然災害（地震）が起きた時、ライフライン（電気・水道・通信・食糧・道路損壊等）がダメになった時、各自治・町内会の役員が会員ともども『一人も、もれなく』近くの「避難場所へ誘導」にどう取り組むのか。自助、共助、公助の順で大変重い課題であります。

うれしいお話があります。それは、上所校区コミュニティ協議会（28・自治町内会）の中で、4団体（4自治・町内会）が一つになり、新たに自主防災会の組織を立ち上げたことは、大変に喜ばしいことであります。

これで、約50%に近づき、さらに将来は全自治・町内会が『危機管理対策』として自主防災会等を立ち上げることを期待致します。



「犯罪が起こりやすい条件とパトロールの視点」をおえて

防犯部 部会長 浅 野 昌 禧

11月28日鳥屋野公民館において多数の参加をいただきまして誠にありがとうございました。

会場の設営をお手伝いしていただいた方々や、新潟市安全安心推進室など多くの方のご協力により無事終了出来ました事を厚く御礼申し上げます。

防犯の意識向上のために、今年は、市の担当者に「犯罪機会論の講座」をお願いし標記題目になりました。

さて、犯罪のポイントは、①建物・乗物・心にカギを掛ける。
②誰もが入りやすく・見えにくい場所をなくすことです。

犯罪者にねらわれないためには犯罪者に機会をあたえない環境作りが大切と思われまます。町内の落書きやごみが散乱してないか、暗がりが多いかなど日頃から注意喚起していく必要があります。

「地域は地域で、家庭は家庭で自ら守る意識」が必要と思われまます。このたびの講座、防犯防止のために少しでもお役に立てたでしょうか。前向きに実施しては如何でしょうか。

最後に、裏話ですが、市の担当・講師は10月31日県の小宮教授の「犯罪機会論と地域安全マップ」講習がたまたま開催され、今回の講座に参考になればと丸一日講習を受けられたそうです。わざわざ参加されましたことに深く感謝いたします。

我々にわかりやすく説明され、ありがとうございました。

（参考）詳しく知りたい方へ

犯罪は「この場所」で起きる（光文社新書） 著者 立正大学教授 小宮 信夫
犯罪を「したくなる」環境はだめで、「あきらめる」環境が必要である



上所中央連合自主防災会の 避難訓練と結成大会を終えて！

上所中央連合自主防災会
会長 水野 進

上所中一丁目自治会・同二丁目自治会・上所第三自治会・上所中三町内会で結成した自主防災会の結成大会並びに避難訓練を11月28日(日)に悪天候にもかかわらず総勢144名の多くの皆さんからのご参加を頂き、予定通りに無事に終わることができました。

震源地を粟島沖付近でM7.7の地震の発生から避難命令が発令されたことを想定し、午前9時には、各自治会・町内会ごとに決められた一時避難場所に集合。

安否確認後、各自治会・町内会の真新しい「自主防災会ののぼり」を先頭に役員が誘導しながら仮の避難場所である式典の会場に無事に全員集合。

各自治会・町内会ごとに横断幕のもと、和気あいあいと記念写真撮影が行われました。

午前10時より、中央区役所南出張所・上所校区コミュニティ協議会・民生委員・上所消防団の皆様をご来賓にお迎えし、結成大会が開催されました。

式典におきましては、藤田幸夫所長・宗村多四郎協議会会長各位のご祝辞に続き、中央区役所総務課安心安全係の金子係長により「地震だ！その時どうする？」・「地域で減災？」のビデオや講話をいただき、自助や共助で助かる94.9%・公助で1.7%と地域での繋がりがいかに大切かを学ぶことができました。

式典の最後に自主防災会を代表し水野紀一副会長より、「災害は、いつ、どこで起こるかわかりません！日頃から、自治会・町内会などの活動や自主防災活動に積極的に参加し、災害に強い地域を作りましょう！次年度以降も皆さんの声を反映した防災訓練を実施したい」ことを宣言し、無事に終了することができました。

これも一重に、自治会・町内会並びに関係先の皆様のご支援のたまものと厚くお礼申し上げます。



編集後記

新年あけましておめでとうございます。

『思い』は、伝わりましたでしょうか。

自主防災組織の結成率は、新潟市全体で67%・中央区では72%となっております。

一方、上所校区コミュニティ協議会での自主防災組織率は今回ご案内の自治会の取組により、45%になりました。高齢化の顕著になってきている地域社会の安心安全のためにもこの必要性は年々高まり、共助・自助で9割の命が助かっているともいわれております。この『思い』を機に、新しい年には、賛同自治会が少しでも多くみられますことを期待し『新年号』をおとどけいたします。(高島 清)

発行者 宗村多四郎
編集長 高島 清
編集委員 石川 義成
編集委員 相川 良平

